【問題 6】日本 FP 協会 2018 年-9 月-24,25,26

下記の係数早見表を乗算で使用し、各問について計算しなさい。なお、税金は一切考慮しないこととし、解答に当たっては、解答用紙に記載されている単位に従うこと。

［係数早見表（年利 1.0%）］

	終価係数	現価係数	減債基金係数	資本回収係数	年金終価係数	年金現価係数
１年	1.010	0.990	1.000	1.010	1.000	0.990
２年	1.020	0.980	0.498	0.508	2.010	1.970
３年	1.030	0.971	0.330	0.340	3.030	2.941
４年	1.041	0.961	0.246	0.256	4.060	3.902
５年	1.051	0.951	0.196	0.206	5.101	4.853
６年	1.062	0.942	0.163	0.173	6.152	5.795
７年	1.072	0.933	0.139	0.149	7.214	6.728
８年	1.083	0.923	0.121	0.131	8.286	7.652
９年	1.094	0.914	0.107	0.117	9.369	8.566
10 年	1.105	0.905	0.096	0.106	10.462	9.471
15 年	1.161	0.861	0.062	0.072	16.097	13.865
20 年	1.220	0.820	0.045	0.055	22.019	18.046
25 年	1.282	0.780	0.035	0.045	28.243	22.023
30 年	1.348	0.742	0.029	0.039	34.785	25.808

※記載されている数値は正しいものとする。

問 24

青山さんは、老後の生活資金の一部として、毎年年末に 100 万円を受け取りたいと考えている。受取期間を 20 年間とし、年利 1.0%で複利運用した場合、受取り開始年の初めにいくらの資金があればよいか。

問 25

谷口さんは、相続で受け取った 3,000 万円を将来に備えて運用したいと考えている。これを 10 年間、年利 1.0%で複利運用する場合、10 年後の合計額はいくらになるか。

問 26

細川さんは、独立開業の準備資金として、５年後に 1,000 万円を用意しようと考えている。５年間、年利 1.0%で複利運用しながら毎年年末に一定額を積み立てる場合、毎年いくらずつ積み立てればよいか。

【解説】

問 24

POINT

６つの係数の問題では、「どの係数を使えばいいのか」のパターンを把握するのが大事！

KEYWORD

今回の問の注目点は、「受取り開始年の初めにいくらの資金があればよいか」。つまり、「今」いくら資金があればよいか？ということです。
キーワードとして「受取期間〇年で」「年利〇%で運用しながら」「毎年〇万円受け取る」ためには、そもそも「今いくら必要か」⇒これは年金現価係数を使います！（←これが分かれば後は簡単）

20 年の年金現価係数の値が「18.046」なので、100 万円×18.046＝18,046,000 円

問 25

ここでは「今手元にあるお金」を「〇年、〇%で複利運用」したら「〇年後（将来）はいくらになっているか」を聞いている→これは、「終価係数」を使用する！
10 年の終価係数を見ると「1.105」なので
3000 万円×1.105＝33,150,000 円

問 26

「〇年後に〇円貯めたい」から「今、いくらずつ毎年積み立てていけばいいか」⇒これは、減債基金係数を使用する！
５年後なので、その減債基金係数は「0.196」
1000 万円×0.196＝1,960,000 円

正解：問 24　18,046,000 円　問 25　33,150,000 円　問 26　1,960,000 円